

京都府立京都スタジアム（サンガスタジアム by KYOCERA） <全体概要>

プロジェクトのポイント

- 「観るスポーツ」と「するスポーツ」の**あらゆるニーズを網羅するスポーツ拠点**として整備され、にぎわい創出エリア等において、試合やイベント開催日以外でも**多様な世代が楽しめる日常的な賑わい**を創出。
- スタジアム・アリーナの収益性や運営・管理の効率性、利用者の利便性の向上を図るため、積極的に**ITシステムやデータを導入・活用**。
- 多様なステークホルダーの意見が適時に反映される等、**多様な立場の視点に配慮した検討体制を構築**。

施設概要

所在地／アクセス	京都府亀岡市追分町 JR 亀岡駅から徒歩すぐ			
面積	敷地	約33,140㎡	延床	約35,600㎡
構造	鉄筋コンクリート造/ 鉄骨造 地上4階建			
観客席	約21,600人			
付帯施設	VIPルーム	有り（VIPラウンジ、VIPルーム、スカイボックス）		
	飲食・物販	フードコート、イベント時にはコンコースにも出店		
	その他	会議室、防災備蓄倉庫、にぎわい創出エリア（VR・eスポーツゾーン、コワーキングゾーン、クライミング施設、足湯施設、保育園等）等		
ホームチーム	京都サンガF.C.（Jリーグ）			
スポーツ興行	サッカー（国際大会、Jリーグ等）、ラグビー、アメフト、スポーツクライミング（全国大会）、ニュースポーツ、eスポーツ等			
防災機能	・避難所としても機能。防災備蓄倉庫や非常用発電機を設置。			

施設写真



スタジアム全体像

上空からの外観

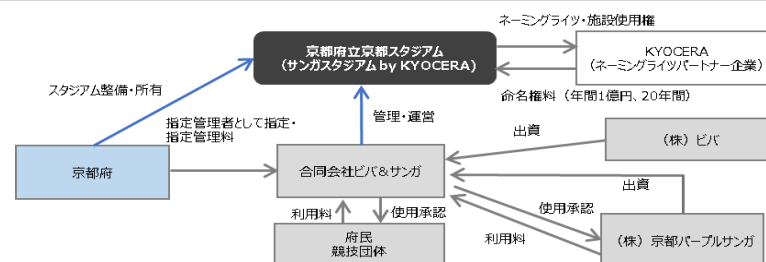
フィールド&スタンド

事業概要

事業スキーム	京都府と亀岡市が所有する土地に、京都府がスタジアムを整備したうえで、指定管理者制度を活用して(合)ビバ&サンガが管理運営。			
事業主体	京都府			
所有者	土地：京都府、亀岡市 建物：京都府			
整備方法	京都府による整備			
資金調達	京都府による整備費の負担、ふるさと納税制度等個人・グループ寄附、企業寄附、スポーツじ助成金、命名権等の活用			
管理・運営方法	指定管理者制度を活用して、指定管理者（合同会社ビバ&サンガ）が維持管理運営。			
事業期間	整備：2017年12月～2019年12月（工期）約2年1ヶ月 運営：2020年1月～			
事業収支（2020年度）（百万円）	整備費	約15,600	管理運営費	約220
	利用料収入	約37	その他収入	約188

行政の役割・支援 スタジアムの整備・所有、指定管理者の指定等

スキーム図



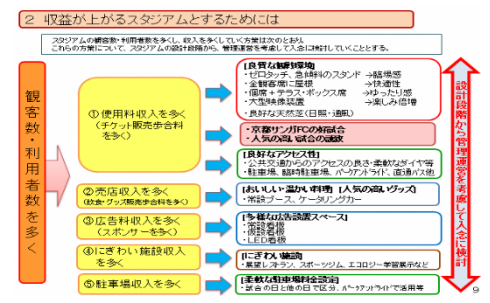
【参考ポイント①】ステークホルダー確認と検討・連携体制の整備

- 有識者、亀岡市等との連携体制が構築され、地元の亀岡駅北土地地区画整理組合との調整にも、京都府自身も加わる形で関与している等、**丁寧に合意形成を図りながら**事業を進める。
- 各分野の専門家等による専門家会議や委員会を設置し、**協議の場を定期的に設置**。
- 業界団体へのヒアリングや調整、地域住民のニーズや消費動向を把握するためのアンケートを実施し、**幅広いステークホルダーの意見を反映**。

<多様なステークホルダーとの連携および調整>

- 亀岡市/亀岡市議会
- 亀岡駅北土地地区画整理組合
- 省庁(文科省(文化庁)、環境省、農水省、国交省等)
- 交通機関
- 商工会議所/観光関係事業者
- 顧客・利用予定者 等

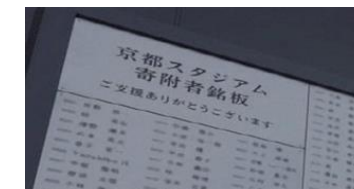
<多様な議論の一例>



【参考ポイント②】多様な資金調達の実現

- ふるさと納税制度を活用し個人・グループ寄附の募集、企業寄附の募集、スポーツくじ助成金、命名権等、**多様な建設資金調達を行い**、スタジアムの競技・観戦環境等の機能の維持向上に資する**財源を確保**。
- にぎわい創出エリアの活用や多様な自主事業の実施等、**様々な収益拡大策**を企画。
- 多様な利用料金の設定**により、コンコースのみを使用したダンス大会の開催等、**多様なニーズに対応**。

<ふるさと納税寄附者の銘板>



<命名権の活用>



<多様な利用料金設定制度を活用したダンス大会>

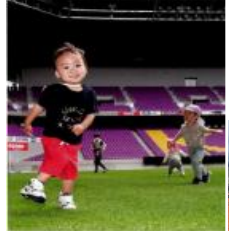


【参考ポイント③】まちづくりの中核となるスタジアム・アリーナの実現

- 京都府や亀岡市の総合計画で文化創造や地域振興計画、**京都スタジアムを中心としたにぎわい創出等について明記**された。
- 付帯施設整備や**多様な世代が楽しめる日常的な賑わいづくり**に向けたコンセプト策定等が充分検討され、**新しいまちづくりに対して京都スタジアムが核となるような計画**となっている。
- 多様な世代が気軽に集うことができる拠点**として、エリア内に**保育園や足湯、3×3コート**等が設けられ**3種目の公式大会が開催可能なクライング施設（スピード、リード、ボルダリング）**も併設されている。

<にぎわい創出エリア>

<遊育プログラム時にピッチで遊ぶ保育園児>



<上：クライミング施設、下：3×3バスケット>



<足湯施設>



<上：e-スポーツゾーン、下：VRフィットネス>



【参考ポイント④】ITデータの活用

- スタジアムの収益性や運営・管理の効率性、利用者の利便性向上を図るため、**施設内外の混雑確認カメラのデータを利用した混雑情報の提供**や自由視点映像カメラ等、積極的にITデータを活用。
- 利用者数の向上を図るため、スタジアム周辺施設も含めた**デジタルサイネージによるプロモーションを導入**。

<混雑確認カメラシステム>



<自由視点映像カメラ>

